

研究課題名	食道運動異常症に対する診断、治療、予後に関する検討
研究の意義・目的	食道運動異常症は、嚥下困難、逆流、胸痛、体重減少を来すなどの患者さんの生活の質が低下する疾患ですが、認知度が低く、早期では診断が困難です。食道運動異常症を早期発見、早期治療することで患者さんの生活の質が改善し、良好な予後が得られることが期待されます。食道運動異常症の診断、治療についてその現状を研究することにより、問題点を明らかにし、今後の診断、治療へフィードバックし、よりよい診断、治療へと寄与するものと考えます。さらに、患者さんの苦痛や負担の軽減および術者・担当医の負担の軽減、医療費の削減などに寄与するものと考えます。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ~ 2030 年 3 月
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2005 年 1 月~2025 年 1 月に大阪公立大学医学部附属病院の消化器内科で、食道運動異常症に対して検査、治療を受けた方が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	診療情報：年齢、性別、身重、体重、BMI、ASA-PS、既往歴、家族歴、抗血栓薬、飲酒歴、喫煙歴、前治療歴、罹病期間、内服薬、術前・術後検査情報：診断名（食道アカラシア Type I、II、III、遠位食道痙攣、Hypercontractile esophagus、EGJOO、IEM、AC）、拡張型、拡張度、Eckardt score、IRP、血液検査（赤血球数、白血球数、血小板数、AST、ALT、アルブミン、血清クレアチニン、CRP、PT、APTT、腫瘍マーカー）、胸腹部レントゲン、胸腹部 CT、上部消化管内視鏡検査、食道内圧検査、インピーダンス・pH モニタリング検査、手術記録：治療法（POEM、バルーン拡張、外科手術）術者、治療時間、筋層切開軸、食道・胃筋層切開長、治療偶発症、ダブルスコープ法、その他：治療奏効、術後在院期間、術後 GERD 発生、胃薬内服、追加治療、食道癌発生
試料・情報の 提供を行う機関の名 称及びその長の氏名 (提供元について)	機関名：公立大学法人大阪 大阪公立大学 機関の長の氏名：理事長 福島 伸一
提供する試料・ 情報の取得の方法	診療の過程で得られた診療情報
提供する試料・ 情報を用いる研究に 係る研究責任者	大阪公立大学大学院医学研究科 消化器内科学 研究責任者 大南雅揮
試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科消化器内科学のみで行います。

個人情報の取り扱い	<p>この研究にご参加いただいた場合、あなたから提供された診療情報などのこの研究に関するデータは、すぐには個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されます。</p> <p>この研究から得られた結果が、学会や医学雑誌などで公表されることはあります。このような場合にも、あなたのお名前など個人情報に関することは含まない形で公表されます。</p>
本研究の利益相反	<p>本研究の利害関係については、各研究機関で定められた利益相反マネジメントの規定等に従って必要に応じて各研究機関の利益相反マネジメント委員会へ報告を行うことにより、利益相反を管理し研究を遂行します。</p> <p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
研究に協力をしたくない場合	<p>診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。</p>
連絡先	<p>大阪公立大学大学院医学研究科 消化器内科学 (担当者氏名) 大南雅揮 電話番号：(06) 6645-3811 メールアドレス：ominami@omu.ac.jp</p>